

第6学年3組 体育科（保健領域）学習指導案

日時：令和6年11月21日（木）第3限
10:40～11:25

指導者：寺地 憲子（四十万小学校）

場所：6年3組教室

1 単元名 病気の予防

2 単元の目標

- ・病気の起こり方、病原体が主な要因となって起こる病気の予防、生活行動が主な要因となって起こる病気の予防、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康、地域の様々な保健活動の取り組みについて理解することができる。 【知識及び技能】
- ・病気の予防について、課題を見つけ、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 【思考、判断、表現等】
- ・病気の予防について、健康や安全の大切さに気づき、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組もうとすることができる。 【学びに向かう力、人間力等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐこと、病原体に対する体の抵抗力を高めることおよび望ましい生活習慣を身につけることは必要であること、また、喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は健康を損なう原因となること、さらに地域において保健に関わるさまざまな活動が行われていることなどを理解している。	病気の予防や回復に関わることから課題を見つけ、病気を予防する視点から解決の方法を考え、適切な方法を選び、それらを表現している。	学習活動に粘り強く取り組む中で、健康の大切さに気づき、病気の発生要因や予防について学習活動に進んで取り組もうとしている。

4 指導に当たって

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領第6学年の内容〔G 保健〕(3)「病気の予防」に基づいて設定したものである。病気を予防するには、病気の発生原因や予防の方法について理解させ、予防のための適切な対策を考えて行動することができるようにする必要がある。ここでは、病気の起こり方及び病原体が主な要因となって起こる病気と生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気を取り上げている。その予防のためには、病原体を体の中に入れないことや病原体に対する体の抵抗力を高めること及び食事、運動、休養・睡眠などについて健康によい生活習慣を身につけることが必要であることを理解できるようにすることを目指している。

また、がんという病気は、1981年から国民の死亡原因の第1位となっており、2人に1人ががんに罹患する時代となった。しかし、がん検診の受診率は低く、がんに関する関心の低さ、誤った認識なども指摘されている。がん対策基本法には、「国及び地方公共団体は、国民ががんに関する正しい知識及びがん患者に対する理解を深めることができるよう、学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進のために必要な施行を講ずるものとする」と記されており、その下でがん対策推進基本計画が策定された。学校教育を通して、がんに関する基本的な知識を身につけ、がんという病気を通して命の尊さや自己の生き方について考えることは、健康に関する基礎的素養として必要なこととなってきている。このことから、学校教育において、がんについて正しい理解を深めることで、がん患者やその家族に対する見方・考え方が変化し、これからの社会の中で活用できる実践力を育てていきたい。

(2) 児童観

児童アンケート（一部抜粋）

質問項目	「正しい」と回答	「誤り」と回答
がんは誰もがかかる可能性のある病気である。	100%	0
がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。	100%	0
早期発見すれば、がんは治りやすい。	86.4%	13.6%
がんの治療法には手術治療しかない。	72.7%	27.3%
がんの痛みは我慢するしかない。	19%	81%

質問項目	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
自分はがんにならないと思う。	0	27.3%	27.3%	45.5%
将来、たばこを吸わないでいようと思う。	85.7%	9.5%	4.8%	0
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	59.1%	31.8%	9.1%	0
がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	19%	28.6%	23.8%	28.6%
がんになっても生活の質を高めることができる。	18.2%	31.8%	27.3%	22.7%
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	33.3%	38.1%	19%	9.5%

どの児童も、がんという病名は聞いたことがあり、誰もがかかる可能性があることは理解している。しかし、がんの治療法やがんになってからの生活については意見が分かれた。がんに罹患すると、思うように生活が送れなくなると考えている児童や、いくつかの治療方法があっても自分で決められず医師が決定すると考えている児童が半数近くおり、がんに罹患することへのマイナスなイメージをもっていたり間違った理解をしていたりすることがうかがえる。生活習慣によってかかる病気と捉えていないかも確認しながら、正しい知識をつけ、患者への理解へとつなげる必要がある。また、「自分はがんにかからない」と考えている児童や「検診をうけようと思う」に否定的な回答をしている児童も一定数いる。このことから、がんを身近な病気と捉えていない児童も少なくないことがわかる。

(3) 指導観

本単元では、病気についての知識や理解を定着させるだけではなく、がんやその他の病気の原因や予防のために自分自身ができることを考えられるようにする。また、がん患者の話を聴くことで、がん患者やその家族への正しい理解とがんという病気とどう向き合っていくのがよいのか考えられるようにもしていきたい。そこで、教科横断的な視点で捉え、保健体育、道徳において各教科の特性に応じた指導を展開していく。

まずは体育科（保健領域）において、感染症や生活習慣病を取り上げ、健康によくない生活とはどのようなものかを具体的に提示し、長年続けるとがん、心臓病、脳卒中などの病気になる可能性が高まることを確認する。そして、自分の生活習慣を見直すことで予防策を具体的に考えさせていく。

道徳科では、がんと向き合う人と触れ合うことを通して、命の大切さや、病と闘いながらも自分らしく生きようとする人間の強さを感じ、自分の生き方について考えていく。どんなに生活行動に気をつけていても病気にかかってしまう時がある。2人に1人ががん罹患する時代となり、自分や身近な人でがん診断されることが起きてくる。小児がんを経験し不安や恐怖を感じ気持ちが揺らぎながらも、がんと共に歩んでいるゲストティーチャーの話を聴くことで、共に生きていくために自分ができるこ

とを考えたり、がんになっても自分らしく生きることができると感じたりしてもらいたい。

5 指導と評価の計画（9時間）

時	主な学習の流れ	・評価基準
1	<p><風邪などの病気はどのようにして起こるのか></p> <p>病気は、生活行動、体の抵抗力、環境、病原体などいくつかの要因が関わり合って起こる。</p>	<p>知感染症や生活習慣病の原因と予防策について言ったり書いたりしている。</p>
2	<p><感染症を予防するにはどうすればよいか></p> <p>感染症を予防するには、病原体をなくす、病原体のうつる道筋をたちきる、体の抵抗力を高めることなどが必要である。</p>	<p>思感染症や生活習慣病の予防について課題を見つけ、その解決に向けて考え、それを説明している。</p>
3	<p><生活習慣病を予防するにはどうすればよいか①></p> <p>生活習慣病を予防するには、適度な運動、栄養の偏りのない食事、十分な休養と睡眠が必要である。</p>	<p>主身近な病気に関心を持ち、その予防の仕方を日常生活に生かそうとしている。</p>
4 (道徳)	<h3>本時</h3>	
5	<p><虫歯や歯周病を予防するにはどうすればよいか②></p> <p>食後や寝る前に歯磨きやうがいなどをして口の中を清潔にしておくことが必要である。</p>	
6	<p><喫煙すると体にどんな害があるか></p> <p>呼吸や心臓などの働きに対する負担がすぐに現れるだけでなく、長年喫煙を続けるとがんや心臓病などで死亡する可能性が高くなる。周りの人の健康まで脅かす。</p>	<p>知喫煙や飲酒、薬物乱用は健康を損なう原因となることを理解している。</p> <p>思喫煙や飲酒、薬物乱用の害と健康について課題を見つけ、その解決に向けて考え、説明している。</p>
7	<p><飲酒をすると体にどんな害があるか></p> <p>脳を麻痺させ、判断力が鈍る、呼吸や心臓が苦しくなる等、大量に飲むことで中毒になるなどのすぐに現れる害だけでなく、長期間続けると依存症になったり、脳や肝臓に大きな負担がかかったりする。</p>	<p>主喫煙や飲酒、薬物乱用の及ぼす害について関心を持ち調べようとしている。</p>
8	<p><薬物を乱用すると体にどんな害があるか></p> <p>一度でも乱用することでやめられなくなり、精神に障がいが見える。一度の使用で死に至ることもある。</p>	
9	<p><地域ではどのような保健活動が行われているか></p> <p>地域の役所や保健所、保健センターなどで病気を予防するために、健康な生活習慣に関する情報提供や、予防接種、健康診断などが行われている。</p>	<p>知地域では保健に関わるさまざまな活動が行われていることを理解している。</p> <p>思地域の保健活動について課題を見つけ、その解決に向けて考え、説明している。</p>

6 本時の学習（第一次5時）

(1) 題目 がん患者への理解と共生

(2) ねらい

- ・「がん」と向き合う人の話を聴くことで、がん患者との関わりや自他の健康と命の大切さについて考えることができる。

(3) 学習過程

時	学習活動と児童の意識の流れ	・手立て 評価
10	<p>1. 前時までをふり返り、本時の課題をつかむ</p> <p>○予防しても病気にかかってしまうことがある。 ⇒小児がん（毎年石川県で15～20人が診断されている）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達や自分がかかる可能性があるし不安だ ・子どものがんがあるなんて怖い。かわいそう。 ・治療が辛そう。 ・楽しいことが何もできなくなるのでは。 <p><もし身近な人ががんになったらどう接すればよいか></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなに予防していても病気にかかることがあることを確認する。
20	<p>2. がんを経験された方の話を聴く</p> <p>講師（小児がん経験者）の紹介</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>20代男性 小学生の時に小児がんと診断 現在はがんサポートセンター「はなうめ」のサポートスタッフとして所属。</p> </div> <p>（担任との対談形式で、主に3点について話していただく）</p> <p>①がんとわかった時のこと ②病院での過ごし方、支えとなったこと ③今、大切にしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を紹介し、児童が感じた不安やつらさについて一緒に考えてもらうことを伝え、不安を和らげる。 ・がん経験者の思いを知ること、がんについての知識を深め、身近な人のために何ができるかを具体的に考えられるようにする。
10	<p>3. がんと向き合う人への関わり方について考える</p> <p>○もしクラスで「がん」の友達がいたら何ができるかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の話をしっかり聴いてあげたい。 ・一緒に楽しいことをして笑いあいたい。 ・できないことを責めずに見守りたい。 ・治療に専念できるように励ましたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで、よりよい関わり方を考え、グループごとに発表してもらう。
5	<p>5. 講師の感想を聞き、本時の学習をふり返る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>病気になっても自分らしく生きていこうとする人がいることがわかったよ。病気の人として過度に優しく接するのではなく、思いやりをもって、友達として変わらず接していきたいな。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の感想から、周りの人との関わり方や命について、これからの自分の生き方に生かしていこうとする意欲を持たせ、余韻をもって終わるようにする。 <p>思「がん」と向き合う人の話を聴くことで、がん患者との関わりや自他の健康と命の大切さについて考え表現している。（発言、ワークシート）</p>